

平成28年9月市議会定例会から

〜工藤市長の一般行政報告〜

9月16日から19日間の会期で開催された市議会定例会では、初日の一般行政報告をはじめ、9月補正予算の審議などが行われました。
※全文は市ホームページにも掲載しています。



市内の交通状況についても、道路通行止めが7箇所、JR宗谷線や、市内線バスが運休するなど、市内の交通機能が、麻痺する事態となりました。

市の対応としては、6日早朝から情報収集を行い、その状況から、速やかに災害対策本部を設置しました。

その後、稚内地方気象台から、土砂災害警戒情報が発表されたことを受け、避難所を開設することにも、市全域に避難準備情報を発令し、緊急告知防災ラジオ、防災メール、市ホームページなどを通じて、市民周知を図りました。

時間の経過とともに悪化する気象状況の中、次々と寄せられる、市民からの通

報に対応するとともに、河川の氾濫や土砂災害の恐れのある地域には、さらに避難勧告、避難指示を発令し、市民へ避難を呼びかけたところでした。

最大時で、98世帯208人に避難指示、3264世帯6210人に避難勧告を発令し、避難者は、約250人となりました。

その後、順次避難所は閉鎖しましたが、全ての避難解除が終了したのは、14日で、最長で9日間の避難生活を強いられたという、かつて経験したことのない規模の災害でした。

現在、床上床下浸水の被害を受けた箇所について、ゴミの回収や消毒作業を行っており、一刻も早く安心した生活を取り戻せるよう、関係機関と連携して対応しています。



ど、記録的な大雨となりました。そのため、市内各所で、河川の氾濫4箇所、道路冠水19件、土砂崩れなど17件、道路の陥没4件、床上床下浸水50件など、本市では、今までにない、多くの被害が発生しました。

また、上水道では、土砂崩れに伴う水道管の流出や、土砂による取水口の閉塞など3件、下水道では、マンホール破損など15件の被害が発生しています。

更なる防災力の向上に努めていきます。

サハリン定期航路の運航状況について

昨年度で一度途絶えた、サハリン定期航路ですが、ホルムスクに本社を置く、

「サハリン海洋汽船株式会社(SASCO)」による就航が決まり、先月1日から運航を再開していましたが、本日の最終便をもちまして、本年度の運航を終了するところでした。

年度当初には想定できないスピード感で、運航が再開できたことには、本市の「北海道サハリン航路株式会社」をはじめ、関係者の皆様のご尽力に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

当初、16往復32便を、本年度の運航計画としていましたが、台風による使用船



船の、回航の遅れによる初便の延期、その後も、台風の影響などによる欠航もあり、最終的には12往復24便の運航となりました。

本年度の利用客数は、往復で日本人が154人、ロシア人をはじめ外国人が357人、合計511人でした。

本航路の再開にあたって、サハリン州政府の積極的な対応もあり、本市としては、北海道にも支援をお願いし、「北海道サハリン航路株式会社」と連携しながら、

航路存続に、取り組んできたところであり、現体制による運航への支援について、今議会に、予算を上程させていただいているところで、次年度以降の対応については、今後、関係者間で、今年の実績も踏まえ、充分検討した上で、出来るだけ早い時期に、一定の期間を見通した方針を、示すことが出来ればと考えています。

なお、私自身、今月6日から8日までの3日間、サハリンに渡り、サハリン州政府やネベリスク市、コルサコフ市、ユジノサハリンスク市の、友好都市3市を訪問し、この航路の諸課題

について、幅広く意見交換を行う予定でしたが、大雨

災害対応のため、中止しました。改めて、この件につきま

砕氷艦しらせの寄港について

南極観測船として知られる、海上自衛隊の砕氷艦「しらせ」が、今月9日から12日までの4日間、稚内港に寄港しました。

現在の「しらせ」の寄港は、平成22年以来6年ぶり2回目、初代「しらせ」を含めると6回目となりますが、今年、タロ・ジロをはじめとする樺太犬が、本市での訓練を終え、我が国初となる南極観測隊とともに、南極へ出発して、60年となる節目の年であることから、

長年、南極と様々な関わりを持つ本市の、「南極観測60周年記念事業」の一環として、実現したものであり、道内では本市が唯一の寄港地となりました。

寄港中は、艦内が一般公開され、南極から運ばれた氷などの展示物や、普段見ることができない、操舵室あるいは船室などの見学に、公開初日の悪天候にもかかわらず